（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	子ども発達サポートセンターはるる　（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	R8年2月1日	～	R8年3月10日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	61	（回答者数）	53
○従業者評価実施期間	R8年2月1日	～	R8年3月10日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	5	（回答者数）	5
○事業者向け自己評価表作成日	R8年3月10日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもの特性や保護者のニーズを丁寧に把握し、個別支援計画に基づき、一人ひとりの発達や状況に応じた支援を行っていること。保護者評価でも、こどもの理解や個別支援計画、支援への満足について高い評価が得られている	こどもの発達段階や特性、その日の様子を丁寧に捉え、一人ひとりに分かりやすい伝え方や活動内容を工夫しながら、安心して取り組める支援を意識している。	こども一人ひとりの発達や特性、成長の変化を職員間で共有し、支援方法を定期的に振り返りながら、より適切な支援につなげていく。
2	日頃からこどもの様子や成長を保護者と共有し、困りごとについても相談しやすい関係づくりを大切にしていること。保護者からも、相談への対応や日頃の情報共有について肯定的な意見が寄せられている。	日々の様子やできるようになったことを保護者と共有し、家庭での様子や困りごとにも耳を傾けながら、こどもの成長を一緒に支えていける関係づくりを大切にしている。	日々の情報共有に加えて、保護者の思いや困りごとを丁寧に把握する機会を大切にし、家庭と事業所がこどもの成長を一緒に考えられる関係づくりをさらに進めていく。
3	こどもの特性や活動内容に合わせた環境整備や活動の工夫を行い、安心して過ごせる場所づくりに取り組んでいること。保護者評価では、安心して通所しているとの回答が53人、通所を楽しみにしているとの回答が51人となっている。	こどもが安心して楽しく通えるよう、活動の見通しを持ちやすくする工夫や環境調整を行い、こどもの「やってみたい」「できた」という経験につながる関わりを意識している	こどもが安心して自分らしく過ごし、さまざまな経験を積めるよう、環境設定や活動内容を継続的に見直し、「できた」「やってみたい」と感じられる機会を増やしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の保育所・幼稚園や関係機関との交流・連携について、今後さらに機会を広げていく必要がある	日々の支援や保護者との連携を優先する中で、地域の保育所・幼稚園や関係機関と継続的に交流・情報共有する機会を十分に確保することが難しい状況がある。	保育所・幼稚園や相談支援事業所などの関係機関と、必要に応じて情報共有や意見交換を行い、こどもの生活全体を見据えた切れ目のない支援につながるよう連携の機会を増やしていく。
2	日々の支援内容の共有に加え、事業所の取組や活動内容、支援の目的などについて、より分かりやすく継続的に情報発信していくことが課題である。	日々の送迎時などに個別の情報共有は行っているが、事業所全体の取組や活動のねらい、支援内容について、すべての保護者に分かりやすく継続的に発信する方法には工夫の余地がある。	日々の個別の情報共有を大切にしながら、事業所での活動のねらいや支援内容、こどもの成長の様子などを、保護者に分かりやすく伝える方法を工夫し、情報発信の充実を図っていく
3	こども一人ひとりに応じた支援をより充実させるため、職員間で支援のねらいや方法を共有する機会を増やし、研修等を通して専門性を高めていくことが必要である。	こども一人ひとりの特性や支援ニーズが異なるため、職員間で支援の意図や具体的な関わり方を十分に共有し、共通理解を深めるための時間や機会を継続して確保していく必要がある。	日々のミーティングやケース検討、研修等を活用し、こどもの特性や支援のねらい、関わり方について職員間で共通理解を深め、一貫した支援につながるよう取り組んでいく。